

施設名	株式会社麻生 飯塚病院
-----	-------------

**2016年度のAct : カンファレンスによって抽出されたチームの課題・問題点**

Act1	緩和ケアチームへの介入依頼について：緩和ケアチームへの依頼が、患者・家族からの直接の相談や、医師以外の職種からも依頼できることが周知されていない。
Act2	緩和ケアチームの質の評価と改善：緩和ケアチーム運営や質の改善のための取り組みがなされていない。

**2016年度のPlan : 改善計画①**  
(上記の課題・問題点についての目標と具体的な改善計画)

		2016年度の改善計画①に対して実施した内容・1年後の目標達成状況	
目標	計画	Do : 実施した内容	Follow-up (Check) : 1年後の目標達成状況・理由

現場の看護師が、主体的に緩和ケアチームに相談できるように周知する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケアチームの体制周知（水平展開を見据え特定の病棟でトライアル）</li> <li>・"現場のニーズと緩和ケアチームの提供できること"を病棟管理者とすり合わせる。</li> <li>・病棟看護師に対して"緩和ケアチームの体制や依頼方法"を周知し、主体的に緩和ケアチームに相談できるようにする。</li> <li>・相談があったケースは、必要な緩和ケアチームの職種が支援し、患者への直接介入が必要な場合は、担当医・緩和ケアチームメンバーに相談した上で介入する。</li> <li>・次年度にむけた課題の抽出と、水平展開の計画立案。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現場の看護師が主体的に緩和ケアチームに相談できるように周知する。</li> <li>・緩和ケアチームの体制周知（水平展開を見据え、特定の病棟でトライアル）</li> <li>・"現場のニーズと緩和ケアチームの提供できること"を病棟管理者とすり合わせる</li> <li>・病棟看護師に対して"緩和ケアチームの体制や依頼方法"を周知し、主体的に緩和ケアチームに相談できるようにする</li> <li>・相談があったケースは、必要な緩和ケアチームの職種が支援し、患者への直接介入が必要な場合は、担当医・緩和ケアチームメンバーに相談した上で介入する</li> <li>・次年度にむけた課題の抽出と、水平展開の計画立案</li> </ul>	<p><b>達成状況</b>：達成している</p> <p><b>理由</b>： 医師から緩和ケアチームへの依頼が最も多い病棟で、看護師からの相談を増やしたいと思い、この取り組みを行った。まずは、管理者と緩和ケアチームや緩和ケア病棟の体制について、ディスカッションできたことで、相互理解を深めるきっかけとなった。また、症例に関する看護師からの相談も増えている。管理者や現場のスタッフのニーズを聞き、チームを活用してもらえたようになったことは、一定の効果があったと言える。次年度も引き続きアプローチを続ける。</p>
-----------------------------------	--	--	--

**2016年度のPlan : 改善計画②**  
(上記の課題・問題点についての目標と具体的な改善計画)

		2016年度の改善計画②に対して実施した内容・1年後の目標達成状況	
目標	計画	Do : 実施した内容	Follow-up (Check) : 1年後の目標達成状況・理由

緩和ケアチームの運営会議を継続し、改善案を10個抽出する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EK(Everyday KAIZEN) 活動の実施</li> </ul> <p>EK (Everyday Kaizen) は当院の3つの改善活動の型の一つです。 特徴は以下の2点です。 ① スタッフが身近にあるムダを自ら発見し、一人でヶ月程度で改善する ② 訓練を受けた指導者が、スタッフが改善を実行できるよう、ヒントを与え支援する 緩和ケア科でも「一番、過ごしたい場で過ごせる」をビジョンにEKに取り組んでいます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●緩和ケアチームの運営会議を継続し、改善案を10個抽出する。</li> <li>・EK (Everyday KAIZEN) 活動の実施</li> </ul>	<p><b>達成状況</b>：概ね達成している</p> <p><b>理由</b>： 緩和ケアチームの運営会議だけに限らず、緩和ケア外来、緩和ケア病棟、一般病棟（緩和ケアチーム）、在宅緩和ケアの患者さんをボーダレスに把握できるよう、毎日、ミーティングを行っている。困難事例や在宅からの入院予想など、多職種で包括的アセスメントを実施できるようになった。また臨床以外にも、毎日、コアメンバーが顔を合わせ、緩和ケア科のビジョンや改善点を共有できる場となっている。</p>
-------------------------------	--	---	---

**2017年度のAct : カンファレンスによって抽出されたチームの課題・問題点**

Act1	チーム介入依頼・紹介のタイミング
------	------------------

**2017年度のPlan : 改善計画①** (上記の課題・問題点についての目標と具体的な改善計画)

目標	計画
チーム介入タイミングの早期化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転科を受ける時は笑顔で。</li> <li>・紹介タイミングの遅い科へ働きかける。</li> <li>・他職種へもチーム紹介を働きかける。</li> <li>・「緩和ケア科について」（紹介方法、PCU入棟基準など）の理解周知。（他職種向け講座等）</li> </ul>